



## 共に学ぶ

一昨日は天気予報の割には好天で、私はつい遊びに出かけてしまったが、昨日は気温も低めだし雨だして、絶好の勉強日和だったと思うが成果は上がったのだろうか？

\*

しかし、夏休みとは偉大なもので（笑）、休み前にやっていたことがすっかり君たちの頭から抜け落ちているのには驚きである（…と言いつつ、どこまで授業をやったか覚えていない授業担当者もそれなりに問題かも知れないが…笑）。これだけやったことが抜け落ちてしまうなら、いっそ夏休み前に期末試験をやった方がいいような気もするが、それはそれで期末に出した内容がすっかり夏休み中に抜け落ちるわけだから、それよりは、少なくとも考查前の一週間で（多少ではあっても）記憶を取り戻すことのできる現行の期間の方がいいような気もするのである。

\*

夏休み中に国語科の教科主任会というのが開かれて、西や戸山や…といった学校の国語科の先生方と話をする機会があった。そこで西の先生が「授業で生徒に考查問題を作らせています」とおっしゃっていて、そういえば昔そんなことをしていたなぁと思い出した。

日比谷の国語科は、定期考查は共通問題で試験範囲も共通だから、普段はその範囲をこなすのに精一杯で、なかなか生徒にテスト問題を考えさせるといった時間を取るのが難しいのであるが、たまたま今回の古典講読では考查前に2時間も余裕があったので、そのうち1時間を使って「期末考查の問題を作る」という授業をやってみた。

最初10分弱で、各個人に、指定した範囲

から「語句の読みの問題」「文法の問題」「古典常識の問題」「現代語訳の問題」「その他の問題」を考えてもらう。上の五つの視点で文章を読み直すことが、期末考查の準備に直接的につながるからである。次に、4人でグループを作り、それぞれが考えた問題を持ち寄りながら約10分間でグループとしての問題に仕上げてもらい、それをクラス全体に向けて発表するという形式にした。グループ討論の途中や発表の途中で、自分が思いつかなかった問題をメモしておけば、自分の学習の盲点を意識することができるし、例えば「現代語訳の問題」では、発表の際「どの部分を訳させたいのか？」も明確にもらったので、どこに重要語があって、どこに文法的な重要事項があるのかといったことも、しっかり復習できるのではないかと考えたのである。

\*

日比谷の生徒は、こういう活動的な学習には積極的に取り組むので、私の授業を聞いているよりも、ズッと能動的な、つまり効果的な復習ができたのではないかと思う。

で、思うのだが、間もなく今年の添削担当を発表するが、添削を受ける際も、個人ではなく、同じ志望校を目指す2～3人でグループを作って指導を受けたらどうだろう。もちろん、同じグループから合格者と不合格者が出たりする危険性はあるのだが（笑）、添削の過程で意見を交換したり、発想を共有したりすることで、先生方との個的なやりとりを超えた、より広く豊かな学習ができるのではないかと思うのである。そんな友だちがいる人はぜひ相談して挑戦してみしてほしい。